

令和3年度

# 鹿児島県公立高等学校 入学者選抜学力検査結果の概要

この資料は、公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要をまとめたもので、受検者の学力の状況について、先生方や県民の皆さんに理解していただくために作成したものです。

小学校、中学校、高等学校、それぞれの立場から、学習指導の改善充実を図るための資料として活用してください。

鹿児島県教育委員会

# 目 次

はじめに	2
1 第一次入学者選抜の状況について	2
2 総得点について	3
(1) 受検者の得点分布	
(2) 受検者（400点以上・360点以上・100点未満）、 合格者（100点未満）の年度別推移	
3 各教科の平均点等について	4
(1) 各教科の平均点	
(2) 受検者の平均点の年度別推移	
(3) 各教科における受検者の得点分布及びそのグラフ	
4 目安点をめぐる状況について	6
(1) 目安点未満の人数推移（過去5年間）	
(2) 目安点未満の地区別状況（出身中学校所在地別）	
(3) 過去5年間の基本的な「読み・書き・算」をめぐる状況	
5 今年の特徴的な問題	8
(1) 国語における特徴的な問題	
(2) 社会における特徴的な問題	
(3) 数学における特徴的な問題	
(4) 理科における特徴的な問題	
(5) 英語における特徴的な問題	
6 国語について	13
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（国語）	
(2) 国語の問題	
(3) 国語の解答例	
7 社会について	17
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（社会）	
(2) 社会の問題	
(3) 社会の解答例	
8 数学について	22
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（数学）	
(2) 数学の問題	
(3) 数学の解答例	
9 理科について	27
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（理科）	
(2) 理科の問題	
(3) 理科の解答例	
10 英語について	33
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（英語）	
(2) 英語の問題	
(3) 英語の解答例	

## はじめに

令和3年3月9日、10日に、公立高等学校入学者選抜学力検査を実施しました。

検査問題の出題にあたっては、学習指導要領に示された目標に則し、小学校から中学校までの間に学習したことのうち、基礎的・基本的な事項及びこれらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力が検査できるように留意したところです。

この冊子では、公立高等学校への出願状況等や学力検査の得点などについて集計した結果に加え、「今年の特徴的な問題」で、各教科の「問題のねらい」や「中学生へのアドバイス」を紹介しています。小学校、中学校、高等学校、それぞれの立場から、学習指導の改善充実を図るための資料として活用してください。

### 1 第一次入学者選抜の状況について（推薦入学者選抜等に係る人数を含む。）

課程 学科	全 日 制							定時制 計	全定合計	
	普通	農業	工業	商業	家庭	総合・その他	計			
募集 定員	3年度	6,039	760	1,840	1,960	520	718	11,837	84	11,921
	2年度	6,116	760	1,840	1,960	520	758	11,954	84	12,038
出願 者数	3年度	5,392	438	1,611	1,425	414	386	9,666	35	9,701
	2年度	5,632	419	1,720	1,518	418	495	10,202	49	10,251
受検 者数	3年度	5,217	425	1,555	1,397	402	376	9,372	32	9,404
	2年度	5,438	409	1,650	1,487	411	485	9,880	45	9,925
合格 者数	3年度	4,739	416	1,464	1,363	396	365	8,743	32	8,775
	2年度	5,013	390	1,556	1,434	400	465	9,258	44	9,302
受検 倍率	3年度	0.86	0.56	0.85	0.71	0.77	0.52	0.79	0.38	0.79
	2年度	0.89	0.54	0.90	0.76	0.79	0.64	0.83	0.54	0.82

- ・ 開陽高校の第3回・第4回入学者選抜に係る人数を含まない。
- ・ 普通には、普通科、理数科、文理科学科、文理科、情報科学科、体育科、音楽科、美術科、スポーツ健康科が含まれる。
- ・ 受検倍率は、（受検者数）÷（募集定員）として算出した。

（参考）推薦入学者選抜、連携型中高一貫教育校入学者選抜及び帰国生徒等特別入学者選抜の状況

課程 学科	全 日 制							定時制 計	全定合計
	普通	農業	工業	商業	家庭	総合・その他	計		
出願者数	375	24	86	87	41	11	624	2	626
受検者数	372	24	86	87	41	11	621	2	623
合格者数	355	22	86	86	41	11	601	2	603

- ・ 推薦入学者選抜には、自己推薦入学者選抜を含む。

（参考）第二次入学者選抜の状況

課程 学科	全 日 制							定時制 計	全定合計
	普通	農業	工業	商業	家庭	総合・その他	計		
募集定員	1,289	344	376	597	124	336	3,066	29	3,095
出願者数	47	8	5	10	1	6	77	1	78
受検者数	46	8	5	10	1	6	76	1	77
合格者数	44	3	2	9	1	6	65	1	66

## 2 総得点について（全日制，定時制合計）

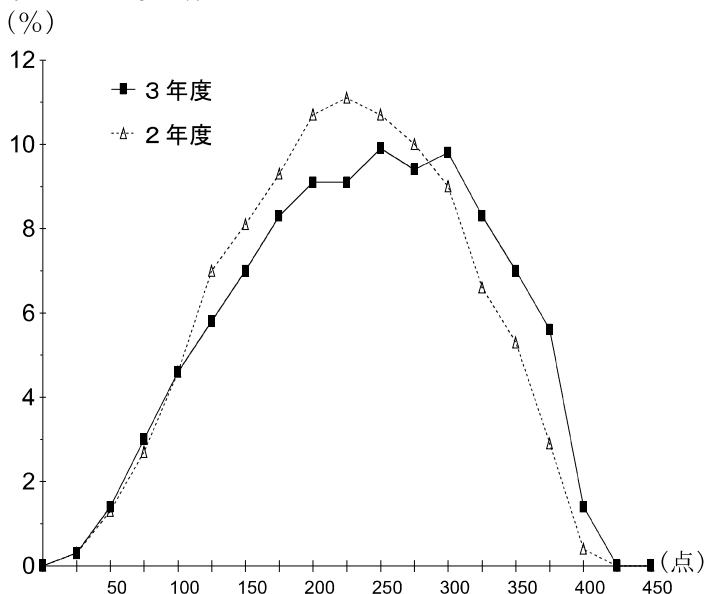
※ この項以降のデータは，すべて学力検査受検者についてである。

### (1) 受検者の得点分布

- 平均点は前年度に比べて12.3点上がった。

令和3年度 248.5

令和2年度 236.2



得点分布																			平均点
0	25	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400	425	450	
0.0	0.3	1.4	3.0	4.6	5.8	7.0	8.3	9.1	9.1	9.9	9.4	9.8	8.3	7.0	5.6	1.4	0.0	248.5	

※ 得点分布は%で示した。

### (2) 受検者(400点以上・360点以上・100点未満)，合格者(100点未満)の年度別推移

年 度	受 検 者								合 格 者			
	受 検 者 数 A	400点 以上 の 人 数 B	400点 以上 の 割 合 (%) $\frac{B}{A} \times 100$	360点 以上 の 人 数 C	360点 以上 の 割 合 (%) $\frac{C}{A} \times 100$	100点 未 満 の 人 数 D	100点 未 満 の 割 合 (%) $\frac{D}{A} \times 100$	合 格 者 数 E	100点 未 満 の 人 数 F	100点 未 満 の 割 合 (%) $\frac{F}{E} \times 100$	100点未 満 の 受 検 者 に 対 す る 割 合 (%) $\frac{F}{D} \times 100$	
3	8,798	122	1.39	977	11.10	413	4.69	8,144	342	4.20	82.8	
2	9,194	35	0.38	569	6.19	401	4.36	8,564	315	3.68	78.6	
31	9,774	4	0.04	348	3.56	649	6.64	8,987	507	5.64	78.1	
30	9,810	85	0.87	829	8.45	593	6.04	8,980	450	5.01	75.9	
29	10,303	43	0.42	701	6.80	554	5.38	9,501	423	4.45	76.4	

### 3 各教科の平均点等について（全日制，定時制合計）

#### (1) 各教科の平均点

区分	課程・学科		総得点	国語	社会	数学	理科	英語
受 検 者	全 日 制	普 通	293.7	56.6	60.9	56.1	57.5	62.5
		専 門	193.3	42.8	39.3	36.5	35.2	39.5
		計	248.9	50.5	51.3	47.4	47.6	52.2
	定 時 制		106.9	31.5	17.2	17.1	18.7	22.5
	全 定 計		248.5	50.4	51.2	47.3	47.5	52.1
合 格 者	全 日 制	普 通	291.9	56.5	60.4	55.8	57.2	62.0
		専 門	195.4	43.2	39.8	36.8	35.6	39.9
		計	247.3	50.4	50.9	47.0	47.2	51.8
	定 時 制		106.9	31.5	17.2	17.1	18.7	22.5
	全 定 計		246.8	50.3	50.8	46.9	47.1	51.7

※ 普通には，普通科，理数科，文理科学科，文理科，情報科学科，体育科，音楽科，美術科，スポーツ健康科が含まれる。専門には，総合学科が含まれる。

#### (2) 受検者の平均点の年度別推移

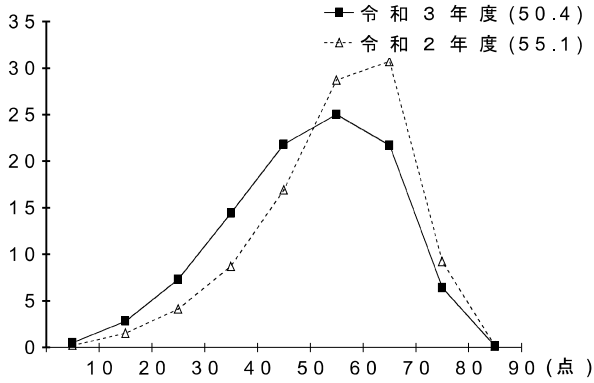
年度	総得点	国語	社会	数学	理科	英語
3	248.5	50.4	51.2	47.3	47.5	52.1
2	236.2	55.1	48.4	42.3	43.0	47.5
31	221.4	44.7	45.8	38.2	46.5	46.2
30	238.6	49.1	49.6	45.2	50.6	44.0
29	238.4	50.5	51.3	40.7	43.6	52.4

(3) 各教科における受検者の得点分布及びそのグラフ

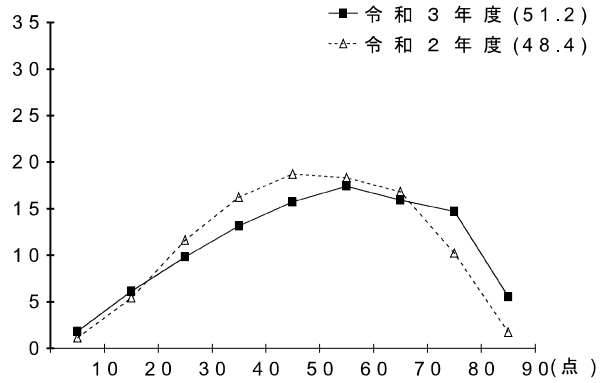
教科	得点分布								
	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90
国語	0.5	2.8	7.3	14.4	21.8	25.0	21.7	6.4	0.1
社会	1.8	6.1	9.8	13.1	15.7	17.4	15.9	14.7	5.5
数学	2.5	7.5	11.2	14.9	17.2	19.3	15.6	10.0	1.8
理科	2.2	8.5	13.1	15.4	15.8	15.3	14.3	10.1	5.3
英語	0.6	5.8	12.3	13.4	13.6	15.0	15.3	16.8	7.2

※ 得点分布は%で示した。

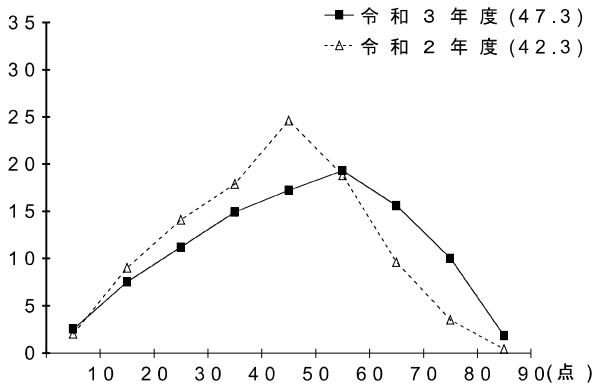
ア 国語



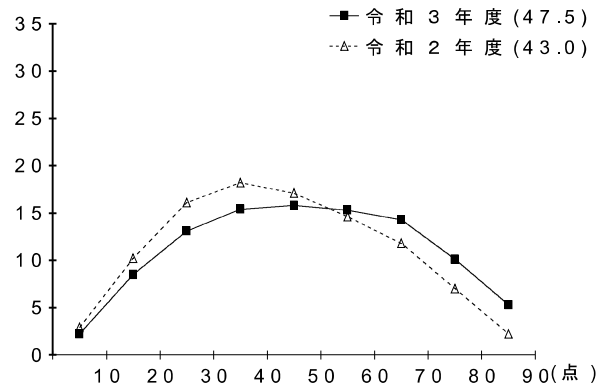
イ 社会



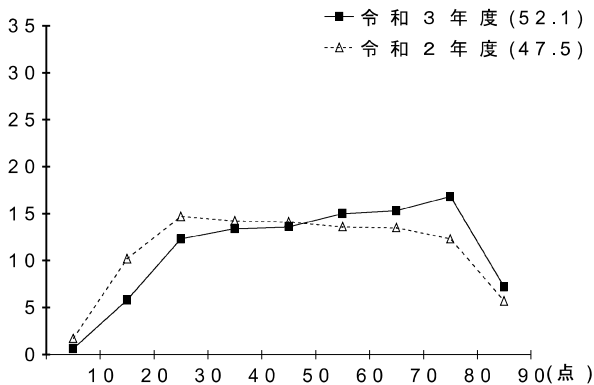
ウ 数学



エ 理科



オ 英語



( ) 内は平均点

#### 4 目安点をめぐる状況について

##### (1) 目安点未満の人数推移（過去5年間）

単位 人

教科等	年度	令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度	平成29年度
国語		188 ( 2.1%)	85 ( 0.9%)	299 ( 3.1%)	176 ( 1.8%)	238 ( 2.3%)
社会		497 ( 5.6%)	396 ( 4.3%)	517 ( 5.3%)	496 ( 5.1%)	404 ( 3.9%)
数学		639 ( 7.3%)	739 ( 8.0%)	944 ( 9.7%)	1,168 (11.9%)	1,231 (11.9%)
理科		652 ( 7.4%)	858 ( 9.3%)	657 ( 6.7%)	509 ( 5.2%)	964 ( 9.4%)
英語		338 ( 3.8%)	749 ( 8.1%)	1,133 (11.6%)	1,047 (10.7%)	431 ( 4.2%)
5教科総点が目安点未満の人数		288 ( 3.3%)	290 ( 3.2%)	458 ( 4.7%)	437 ( 4.5%)	408 ( 4.0%)
目安点未満の教科を1教科以上持つ実人数		1,157 (13.1%)	1,458 (15.9%)	1,783 (18.2%)	1,683 (17.2%)	1,688 (16.4%)
受検者総数		8,798	9,194	9,774	9,811	10,305

※ 目安点は、基礎的内容の設問の合計点であり、国語・社会・数学・理科においては、小学校教材及びその関連教材の内容を含んでいる。

##### (2) 目安点未満の地区別状況（出身中学校所在地別）

地区	目安点	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
	受検者	18点	18点	18点	18点	18点	90点
鹿児島	3,401 人	0.9 %	3.1 %	3.8 %	4.1 %	1.9 %	1.6 %
南薩	619 人	3.2 %	8.1 %	9.5 %	9.9 %	5.8 %	4.2 %
北薩	1,052 人	2.7 %	5.1 %	7.7 %	9.7 %	4.0 %	3.1 %
姶良・伊佐	1,530 人	2.5 %	7.2 %	8.0 %	7.3 %	4.3 %	4.2 %
大隅	1,081 人	3.7 %	8.0 %	10.5 %	10.8 %	6.2 %	4.5 %
熊毛	268 人	2.6 %	7.8 %	11.2 %	10.8 %	6.7 %	5.2 %
大島	611 人	3.8 %	10.8 %	15.7 %	14.2 %	6.4 %	7.2 %
県全体	8,798 人	2.1 %	5.6 %	7.3 %	7.4 %	3.8 %	3.3 %

※ 鹿大教育学部附属中学校、私立中学校等からの受検者数306人については、地区別人数に含まない。

(3) 過去5年間の基本的な「読み・書き・算」をめぐる状況

【国語】

年 度	令和3年度			令和2年度			平成31年度			平成30年度			平成29年度		
読 み	縁側	招致	研(ぐ)	観衆	祈(って)	誓(った)	著(しい)	就(く)	終 息	凝(らす)	臨(む)	快 諾	警 笛	膨(らむ)	陳 列
誤答者数 (人)	1,135	1,734	519	552	506	524	1,867	381	1,652	1,354	3,120	3,178	4,914	463	3,266
割 合 (%)	12.9	19.7	5.9	6.0	5.5	5.7	19.1	3.9	16.9	13.8	31.8	32.4	47.7	4.5	31.7

年 度	令和3年度			令和2年度			平成31年度			平成30年度			平成29年度		
書き取り	貯蔵	耕(す)	額	勇(ましい)	幕	冷 静	似(た)	批 評	混 雑	尊 敬	供(え)	植 樹	寒 暖	険(しい)	奮 起
誤答者数 (人)	3,846	2,042	4,700	2,354	3,669	2,179	1,016	2,825	1,564	2,482	4,964	7,681	3,214	1,339	6,820
割 合 (%)	43.7	23.2	53.4	25.6	39.9	23.7	10.4	28.9	16.0	25.3	50.6	78.3	31.2	13.0	66.2

【数 学】

年 度	令和3年度		令和2年度		平成31年度	
計 算 式	$5 \times 4 + 7$	$2/3 - 3/5 \div 9/2$	$8 \div 4 + 6$	$1/2 + 9/10 \times 5/3$	$5 \times (6 - 2)$	$1/4 + 5/3 \div 10/9$
誤答者数 (人)	352		915		423	
割 合 (%)	4.0		10.4		4.6	

年 度	平成30年度		平成29年度	
計 算 式	$5 + 4 \times 6$	$9/5 \div 0.8 - 1/2$	$83 - 45 \div 9$	$0.2 \times 5/8 + 3/16$
誤答者数 (人)	451		1,756	
割 合 (%)	4.6		17.9	



## 5 今年の特徴的な問題

### (1) 国語における特徴的な問題

- 2 5 次のア～エは、生物の進化について四人の中学生が考えたものである。文章全体を通して述べられた筆者の考えに最も近いものを選び、記号で答えよ。

#### 【問題のねらい】

- 「はずれ者が進化をつくる」という文章全体を通して述べられている筆者の考えを読み取り、具体的な説明として適当なものを選択するという問題。

#### 【中学生へのアドバイス】

- 文章全体を通して述べられている筆者の主張を、論の展開やキーワードに着目して整理してまとめ、正しく読み取る練習をしましょう。
- 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもちましょう。

- 5 太郎さんの辞書に書かれた語釈の特徴である~~~~線部X・Yのどちらか一つを選択し、次の(1)～(5)の条件に従って、あなたの考えを書きなさい。

#### 【問題のねらい】

- 資料に示された三つの具体例をもとに、「主観的な感想が書かれている」、「現代的な意味や用例も書かれている」という辞書の語釈の特徴に注目し、自分の考えを論理的に構築し、伝えたい事柄が明確に伝わるように書いたり、根拠を明確にして考えを具体的に書いたりする力をみる問題。

#### 【中学生へのアドバイス】

- 自分の考えをまとめようとすることは、自分の考えをとらえ直し広げていくことにつながります。社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめてみましょう。
- 言葉はそれを使用する年代によって、語形や語意が異なったり使用する語彙などに差異があったりします。また、最初は限られた範囲で使用されていた言葉が、広く一般に用いられるようになることもあります。日常生活の中にある言葉との出会いを大切に、様々な文章を読んでみましょう。

(2) 社会における特徴的な問題

**1**

Ⅲ 社会科の授業で先生から「福岡市の七つの区について、各区の人口密度を計算し、その結果を地図に表してみよう。」という課題が出された。ある生徒は、図1に示された七つの区のうち、五つの区について表のように人口密度を計算し、その結果を図2のように表した。残りの南区、早良区について、図1と表をもとに図2中の凡例に従って解答欄の地図を完成させよ。

**図1 福岡市の区 表**

区名	人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
東区	306,015	69.4	4,409.4
博多区	228,441	31.6	7,229.1
中央区	192,688	15.4	12,512.2
南区	255,797	31.0	
城南区	130,995	16.0	8,187.2
早良区	217,877	95.9	
西区	206,868	84.2	2,456.9

統計年次は2015年(福岡市資料から作成)

**図2 生徒が途中まで作成したもの**

社-3

**【問題のわらい】**

- 地理的技能は、「地理情報の活用に関する技能」と「地図の活用に関する技能」の二つに分けられる。この問題においては、地域の諸事象や情報について適切に地図化するという「地図の活用に関する技能」をみた。

**【中学生へのアドバイス】**

- 世界や日本の様々な地域について学習した内容を地図にまとめてみましょう。その際には、まとめ方や表現の方法を工夫してみましょう。
- 地理的分野の学習で用いられる資料の中でも最も重要な役割を果たしているのは地図です。中でも地図帳には一般図や主題図、その他統計や写真などたくさんの地理情報があります。地図帳を積極的に活用しましょう。

**2**

Ⅲ 資料は、1914年度から1935年度にかけての日本の軍事費の推移を示したものである。Aの時期に軍事費が減少している理由として考えられることを、当時の国際情勢をふまえて書け。ただし、第一次世界大戦、ワシントン会議ということばを使うこと。

**資料**

(数字で見る日本の100年から作成)

**【問題のわらい】**

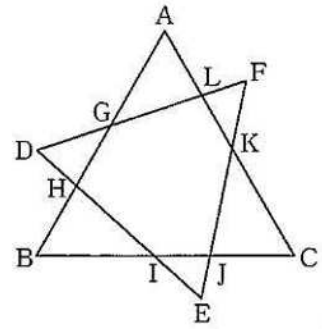
- 第一次世界大戦後の我が国の動きを、大戦後に国際平和への努力がなされたという国際情勢と関連させて考察し、適切に表現する力をみた。

**【中学生へのアドバイス】**

- 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するようにしましょう。
- 諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる学習をしましょう。

(3) 数学における特徴的な問題

2 4 右の図において、正三角形 ABC の辺と正三角形 DEF の辺の交点を G, H, I, J, K, L とするとき、 $\triangle AGL \sim \triangle BIH$  であることを証明せよ。



【問題のねらい】

- 図形の証明についての思考力・表現力をみた。
- 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に説明する力をみた。

【中学生へのアドバイス】

- 図形の性質を確認し、目的に応じて用いることができるようにしましょう。
- 日頃から、一つの解決方法だけでなく他に解決方法がないかについても考えるようにして思考力を身に付けましょう。

4 以下の会話は授業の一場面である。次の 1～3 の問いに答えなさい。

【課題】

関数  $y = 2x^2$  のグラフ上に次のように 3 点 A, B, C をとるとき、 $\triangle ABC$  の面積を求めよう。  
 ・点 B の  $x$  座標は点 A の  $x$  座標より 1 だけ大きい。  
 ・点 C の  $x$  座標は点 B の  $x$  座標より 1 だけ大きい。

ゆうき：あれ、面積が同じだ。

しのぶ：点 A の  $x$  座標がどのような値でも同じ面積になるのかな。

ゆうき：でも三角形の形は違うよ。たまたま同じ面積になったんじゃないの。

先生：それでは、同じ面積になるか、まずは点 A の  $x$  座標が正のときについて考えてみましょう。点 A の  $x$  座標を  $t$  とおいて、 $\triangle ABC$  の面積を求めてみてください。

3 会話文中の下線部について、次の (1), (2) の問いに答えよ。

(1) 点 C の  $y$  座標を  $t$  を用いて表せ。

(2)  $\triangle ABC$  の面積を求めよ。ただし、求め方や計算過程も書くこと。

また、点 A の  $x$  座標が正のとき、 $\triangle ABC$  の面積は点 A の  $x$  座標がどのような値でも同じ面積になるか、求めた面積から判断し、解答欄の「同じ面積になる」、「同じ面積にならない」のどちらかを ○ で囲め。

【問題のねらい】

- 座標平面上にある三角形の面積について、課題を解決するための思考力・表現力をみた。
- 条件によって変化する図形の面積を変数を用いて立式・計算し、図形の面積がもつ性質を捉えることができる力をみた。

【中学生へのアドバイス】

- 関数の性質を深く理解するために、いろいろな関数の問題に取り組みましょう。
- 日頃から条件が変わったらどうなるのかを意識して、図やグラフ、文字式を使って考える習慣を身に付けましょう。

(4) 理科における特徴的な問題

2

次の I、II の各問いに答えなさい。答えを選ぶ問いについては記号で答えなさい。

I 図1のような装置を組み、酸化銅の還元についての実験を行った。図1

実験

- ① 酸化銅 4.00 g に炭素粉末 0.10 g を加えてよく混ぜ合わせた。
  - ② 酸化銅と炭素粉末の混合物を試験管 A の中にすべて入れて加熱したところ、ガラス管の先から盛んに気体が出て、試験管 B 中の石灰水が白くにごった。
  - ③ ガラス管の先から気体が出なくなるまで十分に加熱した後、ガラス管を石灰水の中に取り出し、ガスバーナーの火を消した。すぐにピンチコックでゴム管をとめ、試験管 A が冷えてから、試験管 A 中にある加熱した後の物質の質量を測定した。
  - ④ 酸化銅は 4.00 g のまま、炭素粉末の質量を 0.20 g、0.30 g、0.40 g、0.50 g と変えてよく混ぜ合わせた混合物をそれぞれつくり、②と③の操作を繰り返した。
- また、炭素粉末を加えず、酸化銅 4.00 g のみを試験管 A 中にすべて入れて加熱したところ、ガラス管の先から少量の気体が出たが、石灰水に変化はみられなかった。そして、③の操作を行った。

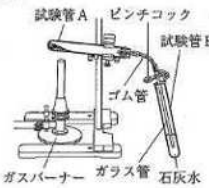
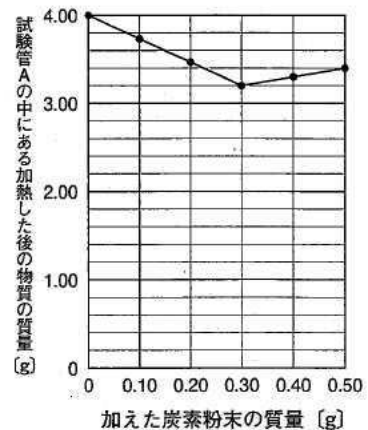


図2



～省略～

- 4 酸化銅の質量を 6.00 g、炭素粉末の質量を 0.75 g に変えて同様の実験を行った。試験管 A 中にある加熱した後の物質の質量は何 g か。また、試験管 A 中にある加熱した後の物質は何か。すべての物質の名称を書け。ただし、固体の物質の名称のみ答えること。

【問題のねらい】

- 実験の結果から得られたデータをもとに、試験管 A 中にある加熱した後の物質の質量とその固体の物質の種類を論理的に思考する力をみた。

【中学生へのアドバイス】

- 探究の過程において、実験の結果が出て終わりではなく、結果を分析し、「そこから何が分かるか。」を常に考えてみるようにしましょう。

4

次の I、II の各問いに答えなさい。答えを選ぶ問いについては記号で答えなさい。

I 鹿児島県に住むたかしさんは、ある日、日の出の1時間前に、東の空に見える月と金星を自宅付近で観察した。図1は、そのときの月の位置と形、金星の位置を模式的に表したものである。

- 4 図2は、地球の北極側から見た、太陽、金星、地球の位置関係を模式的に表したものである。ただし、金星は軌道のみを表している。また、図3は、この日、たかしさんが天体望遠鏡で観察した金星の像である。この日から2か月後の日の出の1時間前に、たかしさんが同じ場所で金星を天体望遠鏡で観察したときに見える金星の像として最も適当なものをア～エから選べ。ただし、図3とア～エの像は、すべて同じ倍率で見たものであり、肉眼で見るとは上下左右が逆になっている。また、金星の公転の周期は0.62年とする。

図1

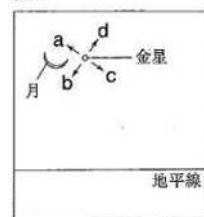


図2

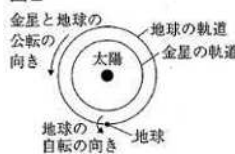
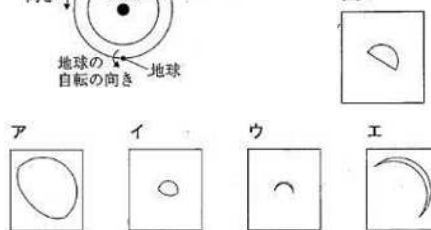


図3



【問題のねらい】

- 金星の動きや見え方を太陽、地球、金星の位置関係と関連付けて思考する力をみた。

【中学生へのアドバイス】

- ぜひ、安全に気を付けて天体の観察をしてみよう。また、観察が難しい場合でも、天体モデルやICTを活用することで、天体の空間的な広がりなどを考えてみよう。

(5) 英語における特徴的な問題

1 7 これから、Olivia と Akira との対話を放送します。その中で、Olivia が Akira に質問をしています。Akira に代わってあなたの答えを英文で書きなさい。2文以上になってもかまいません。書く時間は1分間です。

【放送台本】

Olivia : During the winter vacation, I started reading English books.

Akira : Oh, really? I also started doing something new.

Olivia : What did you do, Akira?

Akira : ( ).

【問題のねらい】

- 実際のコミュニケーションの場面を設定し、聞いて把握した内容について、適切に応じることができるかどうかをみる問題である。話し手からの質問を聞き、その内容や意図を正しく理解して、適切に答えることができるかどうかをみた。

【中学生へのアドバイス】

- 普段から相手が何を聞きたいのか、目的をもって聞き、可能な限り1回で聞き取れるようにしよう。また、ペアやグループで話す活動を行う時は、相手の言うことを聞いてすぐに話したり、後で言いたかったことを書いてまとめたりしよう。
- 日常生活の場面（学校生活や友人との会話、道案内や買い物など）でよく使われている表現をノートなどにまとめたり、教科書の会話文の一部を変えてみたり、話を続けてみたりしよう。

4 7 次は、本文の最後の場面から数日後の Amy と Ken との対話である。Amy に代わって、 に15語程度の英語を書け。2文以上になってもかまわない。なお、下の の指示に従うこと。

Amy : I read the book you gave me. Thank you.

Ken : You're welcome. Was it interesting?

Amy : Yes. There are a lot of things we can do for wild animals in our lives.

Ken : Oh, you've got new ideas. Can you give me an example?

Amy :

Ken : That's a good idea, Amy! We should make the world a better place for wild animals. In high school, I want to study many things about protecting animals.

Amy : Me, too!

【問題のねらい】

- 英文を理解した上で、対話の内容を把握し、その文脈に沿って指定された語数で英文を書いて対話を完成させる問題である。主人公 Amy が野生動物のためにできることを考えて友人の Ken に説明するという設定だが、new ideas と書かれているので、英文中に出てくる「野生動物に餌を与えないこと」、「植樹すること」以外のことを一つ書くという条件を踏まえ、自らの考えを15語程度の英語で表現できるかどうかをみた。

【中学生へのアドバイス】

- 英文を読むときには、大事な箇所に下線を引くなどして、大まかな内容を捉えたり、書き手が伝えたいことは何かをつかんだり、目的をもって読むようにしよう。特に物語文を読む時は、登場人物の行動や心情の変化に着目しながら、全体のあらすじなどの大まかな内容を捉えよう。
- 英文の内容について、自分の考えや感想などを英語で表現する練習をしよう。また、英文を書いたら、例えば、「be 動詞や一般動詞を一緒に使っていないか」「綴りの間違いはないか」などの表現を確認するリストを作るなどして、同じ間違いを繰り返していないか確認してみよう。

## 6 国語について

### (1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(国語)

問 題 内 容	学年	県 正 答 率									
		0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
<b>1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</b>		<b>72.8</b>									
1 (1) 漢字の書き取り(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	小5, 小6	56.3									
(2) 漢字の書き取り(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	小5	76.8									
(3) 漢字の書き取り(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	小5	46.6									
(4) 漢字の読み(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中, 小4	87.1									
(5) 漢字の読み(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	小5, 中	80.3									
(6) 漢字の読み(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中	94.1									
2 書写(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中	68.3									
<ul style="list-style-type: none"> <li>大問全体の正答率は72.8%であり、昨年の82.6%から低くなっている。小問1の(1)は「蔵」を「増」とする解答や「蔵」のなかの「臣」の字が判別しにくい解答が多くみられた。(3)は、「画」や「画区」と書く誤答が多かった。(5)は「しゅうち」や「しようたい」など様々な誤答がみられた。</li> <li>漢字の書き取りには語彙力の定着が不可欠であることから、指導の際には、生徒の実生活に根ざした文例を示したり、実際に短文を作らせたりするなど、指導の工夫を行う必要がある。</li> <li>小問2の正答率は68.3%であり、昨年の84.8%から低くなっている。行書の基礎的な書き方として、点や画の方向及び止めや払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があることなどを理解させる必要がある。</li> </ul>											
<b>2 説明的な文章</b>		<b>48.8</b>									
1 品詞の識別(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中2	60.7									
2 品詞の用法(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中1	91.8									
3 I 内容の理解(読むこと)	中2	55.6									
II 内容の理解(読むこと)	中2	15.8									
4 内容の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	29.8									
5 内容の理解(読むこと)	中2	72.7									
<ul style="list-style-type: none"> <li>小問1「の」の識別は、文法に関する標準的な問題であり、本県において過去にも出題歴があるが、全体の正答率が60.7%という結果であった。助詞や助動詞を使うことによって、言語生活の上でお互いの伝え合いの微妙なニュアンスを、相手によりよく伝えることができることに気づかせる指導が必要である。</li> <li>小問3のIIは本文中から読み取った内容を、指定された字数内にまとめて補う問いであったが、正答率は15.8%と低い結果であった。本文中の表現を繰り返す誤答が多く見られた。また、小問4では「苦手だと決めつける」だけで「チャレンジ」という要素がない解答や「可能性」に言及していない解答が多かった。書き手のものの見方や考え方について、なぜそうなるのかという根拠を求めながら読む必要がある。</li> </ul>											
<b>3 古典の文章</b>		<b>55.0</b>									
1 歴史的仮名遣い(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中1	89.3									
2 内容の理解(読むこと)	中2	48.4									
3 内容の理解(読むこと)	中2	63.1									
4 I 主題の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	76.6									
II 主題の理解(読むこと)	中2	38.1									
III 主題の理解(読むこと)	中2	31.8									
<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して答える小問1は、正答率89.3%と高い結果であった。一方、小問2の正答率は48.4%で、複数の登場人物に惑わされ、内容を整理できていない解答がみられた。言語活動を通して、登場人物や作者の思いを豊かに想像させることで、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、古典の世界を楽しませることが重要である。</li> <li>会話から主題を導く問4では、Iは76.6%と高い正答率であったが、IIは38.1%、IIIは31.8%という正答率であった。先生と生徒の会話を丁寧に読むことや登場人物の対比が不十分と考えられる。先生と生徒の会話等を参考に、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する指導が必要である。</li> </ul>											
<b>4 文学的な文章</b>		<b>49.3</b>									
1 内容の理解(読むこと)	中2	52.1									
2 I 心情の理解(読むこと)	中2	67.8									
II 心情の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	17.7									
3 内容の理解(読むこと)	中2	87.0									
4 内容の理解(読むこと)	中2	79.6									
5 内容の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	28.9									
<ul style="list-style-type: none"> <li>小問1は、語句の意味を意識せず文脈で判断した誤答が多く、正答率は52.1%にとどまった。語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意させ、語感を磨く必要がある。</li> <li>小問2のIIの正答率は17.7%、小問5は28.9%という結果である。それぞれ「十五字以内の言葉を考えて補い、文を完成させよ」、「六十字以内で説明せよ」という問いであるが、抜き出しにより解答を作成している答案が多かった。求められていることを、登場人物や情景等の描写をもとに、指定された字数内にまとめて表現する力を身に付けさせる必要がある。</li> </ul>											
<b>5 作文</b>		<b>51.7</b>									
作文(書くこと)	小5～中	51.7									
<ul style="list-style-type: none"> <li>段落構成条件については、ある程度満たしている解答が多かった。しかし、言葉の変遷や辞書の役割について言及していない、方向性は良いが論が飛躍している、表現が不十分で言いたいことをうまく伝えきれない、主述のねじれが生じている等の解答もみられた。</li> <li>今回は、資料(親子の会話)の具体例から共通すること(相違すること)に気づく必要がある。また、良いと思われる点と問題点という両面に言及しなければならないため、ものごとを多面的に捉え、自分の考えの中心や主張を明確にして書くことが重要である。日常的に自分の考えが伝わるように文章を工夫する活動を取り入れることが効果的である。</li> </ul>											

(注) 学年:当該設問に含まれる事項が初出する学年の意。

(注) ☆:目安対象の要素を含む意。



(2) 国語の問題

5 本殿さんは、国語の復習と書向の勉強をしようとした。その際、本殿さんへの指導はわたしの父親（洋平の別名）に、講義室のなかでこういふはげがこころだ。上の文章は、その時の本殿さんへ、本殿さんへの指導への返答である。うしろに、本殿さんへの指導に書かれた文章の複製である。~~~~~  
 複製X・Yの入力から一つを選択し、次の①～⑤の条件に照らし、適切な答えを書きなさい。

条件

- ① 「複製」を複製するらしい。
- ② 紙「複製」は、複製した複製の真ん中を折られる紙を折るらしい。
- ③ 紙「複製」は、複製した複製の真ん中を折る複製を折るらしい。
- ④ 本殿さんが複製を折るらしい。
- ⑤ 複製の真ん中を折るらしい。本殿、複製を折る複製を折るらしい。

本 殿 「複製を折るとしたら、折るとしたら折るらしい。」  
 母 親 「折るとしたら折るらしい。」  
 本 殿 「折るとしたら折るらしい。折るとしたら折るらしい。」  
 母 親 「くそ。複製を作った人の複製を折るとしたら折るらしい。」  
 本 殿 「複製は [紙] の複製は「紙を折る」らしい。複製を折るとしたら折るらしい。複製は「紙を折る」らしい。複製を折るとしたら折るらしい。」  
 母 親 「その [複製] は「複製を折るとしたら折るらしい。」らしい。複製を折るとしたら折るらしい。複製を折るとしたら折るらしい。」

国-8



(3) 国語の解答例

国語解答例

大問	配点		小問		解答例
1	14点		1		(1) 貯蔵
	2点	2点	(2) 耕(す)	(3) 額	(4) えんがわ
2	26点		2		(5) しょうち
	7点	5点	(6) と(ご)	(1) 十(画)	(2) ウ
3	18点		3		(3) イ
	3点	3点	(4) 4	(4) 4	(5) 工
4	23点		4		(6) こう
	3点	3点	(5) 3	(5) 3	(7) イ
5	9点		5		(8) ウ
	7点	2点	(6) 1	(6) 1	(9) 工
				(7) 1	(10) 工
				(8) 2	(11) きつい言葉
				(9) 3	(12) 対等な立場で先生を説得する
				(10) 4	(13) ア
				(11) 5	(14) ウ
				(12) 5	(15) 自分たちの意見を精一杯伝えたが、先生からなかなか返事が返ってこないため、説得がうまくいったかわからず不安気持ち。
				(13) 5	(16) 略